

平成18年2月6日発行

NPO法人 住宅長期保証支援センター

既存住宅の調査診断活動促進を応援！！

昨年11月下旬の耐震偽装報道以来消費者の住宅産業界に対する信頼は相当低いものになり、当支援センターにも「構造」をテーマにした相談が目につくようになってきました。

信頼を取り戻すには行政の対応は言うまでもないことですが、住宅業界で活動している一人ひとりの動きがキーになります。

当支援センターは安全、安心な住まいづくりや住宅の長寿命化に対して登録住宅事業や住宅メンテナンス診断士講習会を通じての人材育成等の活動と、既存住宅の調査診断を行っています。

この度、住宅メンテナンス診断士の活動促進を応援する助成事業を下記の通り募集をおこなっています。

この助成事業は「住宅の調査診断を行い、その報告書を作成し、実例を消費者セミナーなどに情報提供」の3つの目的を持っています。

併せて、消費者の方々に既存住宅の「調査診断」の重要性と費用発生へのご理解を頂くことです。今回の募集締め切りは2/18です。ふるって御参加をお待ちいたしています。

尚、下記は診断士対象の募集案件ですが、消費者からの応募も10件同時に募集いたしています。

募集詳細はホームページ <http://www.hws.or.jp> でご覧下さい。

募集要項

- 1、A：建物劣化診断 B：簡易耐震診断に助成
- 2、募集数 20 案件
- 3、助成金 A：30,000 円
B：45,000 円
- 4、募集期間 1/18～2/18



調査診断報告書より

平成18年度住宅メンテナンス診断士講習会開催決定

平成18年度は下記のように開催を決定いたしました。詳細はホームページでご案内いたしています。

- | | | | | |
|------|----------------|----|--------|-----|
| 第10回 | 住宅メンテナンス診断士講習会 | 大阪 | 8月10日 | 木曜日 |
| 第11回 | 住宅メンテナンス診断士講習会 | 東京 | 11月15日 | 水曜日 |

消費者相談より



当支援センターに消費者や業者から寄せられた相談をご紹介します。

相談事例： 輸入住宅、部材

木製サッシの腐朽

Q：8年ほど前に輸入住宅を建てました。窓は北米製の木製2重サッシ(ケースメント)です。最近木製枠の一部が腐ってきています。窓枠はそのまま、サッシを取り替えたいと思い、建てた会社へ連絡を取ったところ倒産していました。

何処へ相談したらよいでしょうか。

A：サッシメーカー名は不明ということですが、お聞きしました建築時の仕様書から判断すると北米メーカー(A社製)と考えられます。日本事務所にご相談ください。

尚、北米製の窓は他のメーカーでも同じサイズのものがあり、他社のサッシメーカーのものを採用できます。施工は輸入建材に精通している施工店を選ぶことも大切です。

併せて、日本代理店の相談先等を下記にお問い合わせ下さい。

ATC 輸入住宅促進センター TEL：06-6615-5059 アドバイザー 上野 氏

輸入ドア

A： 輸入木製玄関ドアが築10年経ち、途中メンテナンスをほとんどしなかったところ、とてもみずばらしくなってきました。

玄関ドアの状況は、玄関ドアのひさしが浅く、雨が吹き付けたり東南に向いているので太陽光を終日受ける状態です。

ドアを取り替えようと思い、もう一度輸入ドアを考えています。メンテナンスが楽で以前のデザインに似たドアを探していますが、アドバイスをお願いします。

Q： 木製玄関ドアは取り付け方向や雨・風の影響によって傷み具合が大きく異なります。特に雨や日光が直接当たると腐食や劣化が進みます。

再度木製ドアを希望されるのでしたら寿命を延ばすために、玄関ドアの上のひさしを長くして、雨や日光が少しでも当たらないようにして下さい。併せて

雨の後の手入れや再塗装等のメンテナンスをこまめにしてください。

木製以外ではスチール製ドアとファイバー製ドアがあります。特にファイバー製は木製ドアのような着色も可能で、湿気に強く、メンテナンスの点からも優れています。

住宅はどのような部位でも年ごとに劣化していき、フリーメンテナンスではありません。ぜひ部位・部材にあった点検やメンテナンスを行い、長く快適に使ってください。

